
追憶の底で・L O S E R

～ 詩 ～

相櫨りわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

追憶の底で・LOSER

（詩）

【Nコード】

N0458F

【作者名】

相櫨りわ

【あらすじ】

すれ違う二人の気持ち。兄は妹を想う・・・少し切なく未練がましい詩を読みたいときや感傷的になりたいときにチラッとお覗きください。

(前書き)

初詩です。

＼追憶の底で＼

貴方と離れたくなくて

かけたこの魔法・・・

忘れたくなくて　嫌われたくなくて

悩んで　泣き崩れて　過ぎゆく夜・・・

好きだから

君のこと　いつか　思い出せるように

今は魔法に　閉じ込められて

追憶の底で　忘れないでね

I　LOVE　YOU・・・

好きなのに君を 憶えてなくて

ごめんね 淋しさ こらえられずに・・・

好きなのに

君にもね いつか しあわせ 幸福の瞬間ときがあるように

わたしは願うよ 追憶の奥底で

追憶の底 忘れてもね

ダイスキ

君の事 いつも 想っているように

今は魔法に 身を任せて

追憶の底 忘れないでね

I LOVE YOU

追憶の中・・・

その時をまっ

．．．．．love．．．．．

loser

お前が去ってから

わたしは大人になった

わたしの心には

いつも大きな穴が空いていて

その穴は

いつも

お前を求めている

こんなにも 愛しい存在から

何故 わたしは 離れなければならない？

わたしにとって 大切な存在から

わたしは お前を 愛するが故に

守ってやらねばと 思いすぎたのか

甘えているのは 愛しているのは

わたしとお前の どっちなんだろう・・・

再びやっと 再会するとき

お前をしっかりと 腕に閉じ込めて

優しい温もり 今はわたしのものだよ

こんなにも 愛する存在を

何故わたしは 手離してしまったのだろうか？

わたしにもきつと 捉まえる術はあった

わたしに お前は 必要不可欠

お前がいないと 夜も明けない

離れていくのは それを追うのは

わたしとお前のどっちなんだろう・・・

今こそわたしは 離れなければ

いつまでもお前を 離さずにもてない

甘えているのも 追いかけるのも

きつといつも わたしの方だから・・・

”敗者”のわたしに逃げ道はなかったんだ・・

（後書き）

はい、ちょっと意味がわかりませんでしたね〜！

これは、兄妹の詩です。「追憶の底で」は妹の方が兄ではない好きな人に当てて書いた詩、「LOSER」はそんな風に大人びていく妹を未練がましく見る兄の目線でございます。

では、ありがとうございました〜！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0458f/>

追憶の底で・L O S E R ~ 詩 ~

2010年10月20日18時57分発行